

指導資料



鹿児島県総合教育センター

幼児教育 第14号

—幼稚園，小学校，特別支援学校対象—

平成21年5月発行

これからの幼稚園教育

—領域「人間関係」の改訂のポイントを踏まえた指導の在り方—

平成21年度から，新幼稚園教育要領が実施となった。今回，保育内容が最も多く改訂された領域は，「人間関係」である。家庭や地域社会で同年齢の子ども同士でかかわることが少なくなっている現状や，小学校との滑らかな接続を図ることなどから，「認められる体験を通して自信をもつようにすること」や「協同する経験を重ねること」，「規範意識の芽生えを培うこと」などが主な改訂のポイントとなっている。

幼稚園教育要領 第2章ねらい及び内容

〔人間関係 3 内容の取扱い〕

- (2) (略)～特に，集団の生活の中で，幼児が自己を発揮し，教師や他の幼児に認められる体験をし，自信をもって行動できるようにすること。
- (3) 幼児が互いにかかわりを深め，協同して遊ぶようになるため，自ら行動する力を育てるようになるとともに，他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。
- (5) 集団の生活を通して，幼児が人とのかかわりを深め，規範意識の芽生えが培われることを考慮し，幼児が教師との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で，互いに思いを主張し，折り合いを付ける体験をし，きまりの必要性などに気づき，自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

そこで，本稿では，領域「人間関係」におけるこれらの3つの主な改訂のポイントを踏まえた指導の在り方について述べる。

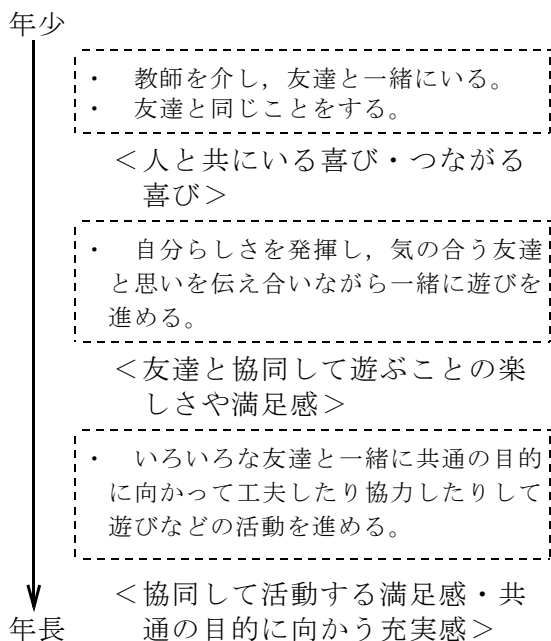
1 協同する経験を重ねる指導の在り方

前述の(3)は，今回の改訂で新たに加わった〔内容〕(8)「友達と楽しく活動する中で，共通の目的を見いだし，工夫したり，協力したりなどする。」の取扱いについて示したものである。

「協同する」とは，ただ単に，幼児同士が一緒に何かをするという意味ではなく，一人一人の幼児が自己を発揮し，相互に調整し合いながら，何か新しいものをつくり出していく過程という意味で用いられている。この協同する経験を重ねていくことで，幼児は身近な人と親しみ，かかわりを深めていく力を養っていくと考える。

(1) 協同する経験を得るまでの流れ

入園してすぐに周囲の友達と協同して遊ぶことは考えにくい。幼児が協同して遊ぶようになるまでには，おおよそ以下に示すような流れがある。



指導する際は、計画の段階で上記の流れを十分に考慮することが大切である。

(2) 協同することを体験する活動内容

活動には、以下に示すア、イのような内容が考えられる。

ア 課題活動のように学級の共通の目的に向かって工夫・協力し合う活動

(例：おいもパーティーをしよう、節分を楽しもうなど)

イ 遊びの中で一人一人の幼児がそれぞれの思いやイメージを共有し、調整しながら共通の目的を見だし、工夫・協力し合う活動

(例：お店屋さんごっこ、砂山遊びなど)

アについては、発表会や交流活動など前もって計画されたものとなるが、教師はできるだけ、幼児自身が共通の目的を見つけ出し、話し合いなどを通してその実現に向けて工夫したり協力したりするような働きかけに努める。このことは、今

回「協同する経験を重ねる」ことに関連し、それが幼児自身の自発性や主体性に基づくものであることの重要性が強調されていることから、十分に考慮しなければならない。

(3) 協同することを援助する指導のポイント
各過程で教師自身も活動のイメージを広げ、活動を予測し、幼児の思いを大切に
した援助に努めることが必要である。

過程	教師の援助
ともとの出や会事 のイメージ	① 意欲付けや幼児の思いにそった環境の構成 ② 活動を価値付ける言葉掛け ③ 目的の視覚化 など
深活 ま動 りの 広 が り ・	④ 情報の提供 ⑤ グループ間のつながりや交流の促進 ⑥ 試行錯誤や時間や空間の保障 ⑦ 新たな環境構成の工夫 ⑧ 思いや考えをつなぐ言葉掛け ⑨ 賞賛や励まし など
束活動 の 収	⑩ 共通の目的を達成した喜びを共感 ⑪ 友達と協力し合う楽しさや喜びを共感

(4) 協同することを体験する活動と援助の事例

この事例は、数人の年中男児が始めた「ラーメン屋さんごっこ」の遊びに、周りの幼児が興味を示し、ラーメン屋さんをイメージしながら必要な役割を分担し、工夫・協力し合って、ごっこ遊びを発展させていった事例である。

教師は、幼児の活動を見守ったり、一緒に活動したりしながら、活動状況や幼児の思いを捉え、それに応じた環境構成の工夫や言葉掛けなどの援助を行っている。

〔実践例〕

活動	ラーメン屋さんごっこ	年中児	かかわりの対象	人 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	自然
<p>【これまでの姿】 2学期に入り、ごっこ遊びが盛り上がっている。参加する幼児の人数も多くなり、友達同士のかかわりも多く見られるようになってきた。ラーメン屋さんは、最初、数人の男の子が始めた遊びだが、たくさんの幼児たちが興味を示して男女を問わず人気のあるごっこ遊びになりつつある。</p>					
幼 児 の 姿			教 師 の 援 助		
<p>＜ものや事象との出会い＞</p> <p>○ 数日前から続いているラーメン屋さんごっこを始める。 A児「ラーメン屋さんをしよう。」 B児「仲間に入れて。」</p> <p>○ 数人で積み木を使って場づくりを始める。続々と幼児が集まり、入りたいという友達を仲間に入れる。</p> <p>＜活動の広がり・深まり＞</p> <p>○ チケットを渡す係など、自分たちで役割を分担しながら協力し合ってラーメン屋さんごっこを楽しむ。 C児「ラーメン屋さんですよ。先生このチケットを持ってきたら食べられますよ。」 教師「ええ本当？じゃあ早速食べに行こう。」 D児「いらっしやいませ。麦茶ですよ。」 E児「ぼくはラーメンをつくる人なの。先生、何ラーメンがいい？」 (略)</p> <p>E児「Fちゃん、できたよ。先生にもって行ってね。」 F児「おまちどおさま。醤油ラーメンです。」 教師「わあ、おいしそう。卵のりまで付いているね。」 B児「先生も一緒につくろうよ。」 教師「じゃあ食べたら働くね。」 (略)</p> <p>＜活動の収束＞</p> <p>○ 片付けの時間になり、自分たちが切ったストローや輪ゴム、紙などを箱に入れ片付け始める。 C児「明日も続きをしようね。」</p>			<p>○ 以前使っていたストローや輪ゴムを切ってつくった材料を残しておいた。また、新たな活動を予想し、カップや色紙なども準備した。 (①)</p> <p>○ 積み木の積み方など、幼児が安全面を意識できるような言葉掛けをした。</p> <p>○ チケットをもらい、お客さんになって遊びに加わり、教師自身が楽しむようにした。 (⑤)</p> <p>○ お客さんになりながら、幼児同士のかかわりや活動の様子を見守ったり、幼児の活動や思いに応じた言葉掛けをしたりした。 (⑧⑨)</p> <p>「他にはどんなラーメンがあるの？」 「唐揚げラーメンもあるんだ。」 「忙しいね。すごい人気だね。」</p> <p>○ 出された料理について話をしながら、工夫しているところなど具体的に言葉掛けするようにした。 (④⑨)</p> <p>「クシャクシャにして、のりの感じを出しているね。」 「ネギの緑色もとってもきれいだね。」</p> <p>○ 幼児の明日も続きがしたいという気持ちを大切に言葉掛けをした。 (⑩)</p> <p>「今日も商売繁盛だったね。」 「明日はもっとお客さんが来たらいいね。」</p>		
<p>【考察】 ラーメン屋さんごっこでは、今までの家族ごっこやヒーローごっこに比べて、自分だけの世界というより、友達と協力し合って役割を分担しながら遊んでいる姿が見られた。例えば、チケットをつくる係の幼児やラーメンをいろいろな材料でつくる幼児、呼び込みをする幼児など一人一人の役割が明確に分かれてきている。それぞれのイメージの違いから言い争い姿が見られることもあったが、一緒に遊んでいる幼児同士でうまく解決しているようだ。</p>					

※ 「教師の援助」の番号は、前項(3)の「教師の援助」の番号と関連する。

鹿児島大学教育学部附属幼稚園の実践事例を基に作成

2 認められる体験の充実を図る指導の在り方

「幼児が認められる体験を通して自信をもつようにすること」については〔内容の取扱い〕(2)に以下のように示されている。特に下線部は新たに加筆された内容である。

「幼児の主体的な活動は、他の幼児とのかかわりの中で深まり、豊かになるもので

あり、幼児は其中で互いに必要な存在であることを認識するようになることを踏まえ、一人一人を生かした集団を形成しながら人とかかわる力を育てていくようにすること。特に、集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自信をもって行動できるようにすること。」

教師は、幼児のよさを認めるようにするために、以下の点などに留意し指導に当たることが大切である。

- ・ 一人一人の発するサインや思いを受け止め、安心できる温かい雰囲気づくりに努める。
- ・ まず、教師がその幼児なりのよさを認め、励ましや賞賛に努める。
- ・ 互いに楽しかったことなどを表現し合う場を設け、その中で、教師が紹介するなどして、友達のよさを認め合えるようにする。(降園前の集まり等で)

以下に示すのは、「鉄棒遊び」をする中で、教師が、A児のおかげで前回りができるようになったと感じているB児の言葉を受け止め、A児が自信をもつことができるような言葉掛けをしている例である。

＜鉄棒遊びをするA児、B児と教師のかかわり＞

- 前日に前回りができるようになったA児と、前日に引き続き前回りに挑戦するB児、C児が鉄棒遊びを始める。
A児「今日も(前回り)できたよ。」
B児「Aちゃん、すごいなあ。」
A児「わたしがBくんに教えるからね。見てて。」
(A児がB児に前回りを見せる。)
- A児とB児が教師のところに走ってくる。
B児「先生、できたよ！見に来て！」
A児「先生、早く、早く！」
- B児が教師に前回りを見せる。
B児「先生いくよ。見ててね。」(ぐるっと回る。)
教師「Bくんやった。すぐできるようになったね。」
B児「Aちゃんが教えてくれたんだよ。」
教師「Aちゃんは、Bくんの鉄棒の先生だね。」
A児(うれしそうにほほえむ。)
- A児とB児は繰り返し前回りを楽しみながら、C児にも自分たちの前回りを見せ、C児を応援する。

3 規範意識の芽生えを培う指導の在り方

幼稚園生活では、自分の欲求を無理に通してきまりや約束を守らなかったために、遊びの中などで、しばしば友達とトラブルになることを体験する。こうした体験を通して、幼児は、きまりの必要性や、自分の気持ちを調整することの必要性を次第に理

解していき、規範意識の芽生えを培っていく。そこで、教師は、以下の点などに留意し指導に当たることが大切である。

- ・ 幼稚園が一人一人にとって、楽しく安心できる場所であるように環境構成を整える。
- ・ 幼児が自分の思いや考えを、言葉で表現することができるよう援助する。
- ・ トラブルが起きた際に、幼児の様子を見守ったり、適切な言葉掛けをしたりする。 など

以下に示すのは、「砂遊び」をする中でトラブルになり、教師の適切な言葉掛けにより、幼児が自分の気持ちを調整して相手と一緒に活動できた例である。

＜砂遊びをするD児、E児と教師のかかわり＞

- 砂場で山をつくったり、トンネルを掘ったり、水を流して川に見立てたりして思い思いに遊んでいる。
- D児が、川をつくろうとスコップで砂場を掘っていると、E児が楽しそうに砂を入れて埋めようとする。
D児「しないで！しないで！もう、しないでってば。」
E児「・・・・」(気付かず続ける。)
D児「ちがうの！そうじゃないんだ。」
- E児のスコップに入っていた砂がD児にかかる。
D児「うああん。もう掛かったあ。」
E児「・・・・」(気付かず続ける。)
教師「Dくん。どうしたいの。」
D児「ぼくは、ここに川をつくって水を流したいの！」
教師「Dくんは、川をつくりたかったから、ここを掘ってたのか。そのことをEくんに言った？」
D児「ううん。言っていない。」
教師「そのことを言わなきゃEくんも分からないよ。自分で言ってごらん。」
D児「Eくん。川をつくりたいからそれしないで。」
教師「Eくん。Dお兄ちゃんは、ここをスコップで掘って川にしたいんだって。」
E児「うん。じゃあぼくもする！」
- 二人はこの場所に川をつくるというイメージを共有しながら、砂場を掘り始めた。

幼児の豊かな人間関係の育ちを保障していくためには、教師の役割が重要である。教師は、自分自身にゆとりをもって幼児と向き合い、心を通わせる姿勢をもつことが不可欠である。幼児の発達と成長を長い目でとらえ、教育課程及び日々の指導の改善に努めていきたいものである。

〔参考文献〕

文部科学省『幼稚園教育要領解説』平成20年 フレーベル館
文部科学省『初等教育資料』平成20年 6月号 東洋館出版社
(教職研修課)